

令和7年度〔自己評価報告書〕

学校番号	学校名	校長名
202	川崎市立南大師中学校	熊木 節子

学校教育目標	今年度の重点目標
(1)何事も科学的に処理できる人をめざそう。 (2)社会生活のすべてを民主的に行える人をめざそう。 (3)豊かな教養を持った人をめざそう。 (4)健康で働く意欲のある人をめざそう。 (5)世界の人々から尊敬される人をめざそう。	○生徒の安全を第一に考えながら、生徒が充実感・達成感を味わえる、自己肯定感を高められる教育活動を創意工夫して実践する。 ○「主体的・対話的深い学び」の実現のため、GIGA端末等を積極的に活用するとともに、魅力的な授業展開を工夫して、生徒の学習意欲を高める。また、基礎基本の定着を図るために、わかりやすい授業を実践する。 ○平和学習を継続し、思いやりをもった、平和の尊さを深く理解できる生徒の育成を図る。

評価項目	具体的な取組	成果と課題	具体的な改善策
1 学習指導・教育課程	○主体的に対話的な学びの促進を図るため、「個別最適な学び」や「協同的な学び」を取り入れて授業展開を工夫した。 ○かわさき共生＊共育プログラムの研究協力校として授業や職員研修に取り組んだ。 ○小中連携教育では、学区小学校(四谷小・大師小)での授業参観を実施した。	○授業実践を通じて、教師や生徒にも「主体的・対話的で深い学び」の大切さが浸透しつつある。 ○かわさき共生＊共育プログラムについては、効果測定の研修を通して意識を高められた一方、確実かつ有意義な授業実施が課題である。 ○学区小学校の授業参観を通して、地域に暮らす子どもたちとともに育てていく意識や抱える課題を共有することができた。	○学習状況調査の結果や教育課程研究会の成果を今後の授業に生かす。 ○かわさき共生＊共育プログラムの授業実施について、学校全体や学年ごとの担当者間の連絡・調整をより緊密に行う。 ○異校種間連携の課題に対する方策やよりよい連携の在り方について検討を継続する。
2 生徒指導・特別活動	○日常のあいさつや声かけ、年3回の教育相談等を通して、生徒の様子を把握し、迅速な対応に努めた。 ○学校全体で情報を共有し、共通理解を図り適切な指導に努めた。 ○外部から講師を招き「交通安全教室」や「薬物乱用防止教室」等の講演会を実施した。 ○生徒主体の行事になるよう心掛け、生徒の自己肯定感が高められる工夫を行った。	○定期的な教育相談やアンケートなどの実施により、様々な事案に対して早期に対応することができた。 ○教育相談に限らず、いつでも生徒が相談しやすい環境整備が必要である。 ○様々な講演会は、その専門の方が講師となつて行うため、生徒たちの安心・安全な生活のための学びの場となった。 ○学校行事や生徒会行事に生徒の意見を反映させることにより、一人ひとりの自己肯定感を高めることができた。	○カウンセリングマインドを大切に支援や指導の充実を図り、より確かな信頼関係づくりに努める。また、チームで対応する際には、その役割分担の明確化に努める。 ○カウンセラー室等を活用し、放課後などの時間にいつでも生徒が相談できるような日や期間などを設定し、特別な期間でなくても相談等ができて環境づくりを推進していきたい。 ○不登校生徒とその保護者に対して丁寧な対応を心掛け、組織的に関わっていくとともに、アプローチの方法を工夫し、本人、保護者の意向に沿った指導、支援を実施していく。 ○短い準備期間でも安定した行事運営ができるように、取組の成果と課題は毎年積み重ねていく。
3 保護者・地域社会等との連携	○掲示板に学校便りや写真を掲示し、大会で結果を残した部の横断幕を校舎外壁に掲示した。また来校された方へ向け職員室前に学校・学年便りや写真を掲示し、広報活動に取り組んだ。 ○生徒の主体的な活動の場として、地域での様々なボランティア活動や地域教育会議子ども会議等を支援した。 ○体育祭や合唱コンクールといった学校行事で、PTAの方に裏方として活動を支援していただいた。 ○2回目の学校運営協議会には代表生徒が1年間の活動について報告を行い、地域の方に生徒会活動について理解していただいた。	○学校内外に掲示物や横断幕を掲示するといった広報活動は年間を通して定期的に行った。また、学校ホームページの更新も定期的に行うことができた。 ○ミマモルメを活用して保護者に各教科の年間計画を発信したり、自然教室や修学旅行といった宿泊行事では定期的にメールを配信して、活動の様子を家庭に連絡することができた。 ○PTA行事へ積極的に参加して、保護者からの信頼を高め、地域に根ざした学校づくりをさらに推進していきたい。	○掲示板や学校ホームページの定期的な更新を担当者と連携して行い、教育活動を積極的に発信していく。 ○ボランティア活動を推進し、地域に貢献する生徒の育成に努めていく。 ○学校評価アンケートを有効に活用し、結果を精査することで教育活動の点検と改善を行う。 ○次年度も定期的に学校運営協議会を実施し、もっと地域の方に学校を知ってもらったり、多くの教員や生徒たちが会議に参加することで、地域連携の推進を図る。
4 平和教育	○令和2・3年度の教育課題(平和学習)の研究主題である「さまざまなアプローチから平和について学ぶ試み」のもと、全校体制で平和学習を推進していくことができた。 ○平和の尊さを深く理解できる生徒の育成をめざし実践を重ねることができた。	○定期的に総合的な学習部会を開き、各学年の現状や実践方法などを確認、相談し合うことにより、学校全体で平和学習に取り組むことができた。 ○各学年、各々が課題を設定し、段階に即した平和学習を行い、文化祭や掲示物で交流することができた。 ○自分たちで課題を設定することにより、自分事として捉え、より平和の尊さについて考えさせることができた。	○生徒自らに課題を設定させることにより、今まで以上に深く学ぼうとする様子が見られた。設定した課題に対し、実践を行う機会を増やし、課題設定、準備、実践、振り返りという形を繰り返すことにより、平和について常に課題意識をもち、自ら積極的に考えようとする生徒を増やしていきたい。
5 健康・安全教育	○学級担任による学級活動や外部講師による講演会を実施し、健康意識の向上に努めた。 ○学校安全管理の観点から継続した取り組みを生かし、避難訓練や防災教育を通して、防災意識の向上に努めた。	○健康教育を通して、健康課題について考え、健康的な生活を実践しようとする意識の向上が見られた。 ○集団下校訓練や防災訓練をはじめとした実践的な訓練を通して、防災や安全に対する意識の向上が見られた。	○基本的な生活習慣が身につけていない生徒が多いため、今後も継続して実践していきたい。また、生徒の実態にあった内容や実施時期を検討していきたい。 ○危機管理意識の向上を図れるよう、様々な訓練を継続的に実施する中で、防災意識の向上を図るとともに、学校における防犯対策に向けた取組を行っていきたい。

6	特別支援教育	<p>○個々の生徒の実態を理解するよう努め、年間を通して多くの職員でかかわりをもつことができた。</p> <p>○特別な支援が必要な通常級の生徒について、関係機関とも連携し支援方法の工夫・改善に努めた。</p>	<p>○関係機関とも連携し職員会議や支援会議等を活用し全職員で共通理解を図り、適切な対応ができた。</p> <p>○支援が必要な生徒の困り感や、個に応じた指導方法について、専門家等も交えて話し合い、適切な対応をする。場合により外部機関と連携し、ケース会議を計画的に実施していくことができた。</p>	<p>○生徒の困り感や保護者の願いに寄り添い、生徒の個性を受け止め、支援方法などについて、さらに工夫、改善していく。</p> <p>○多くの職員やサポーターが関わり、全校での共通理解を図っていく。また、積極的に外部機関と連携し多角的に支援していく。</p>
7	キャリア在り方生き方教育	<p>○「キャリア在り方生き方教育」を通して、「持続可能な社会の構築を目指して、地域、防災、平和などの探究の成果を、主体的に地域や社会に発信しようとする生徒」「自己を見つめ、自分の在り方や生き方を考え、自他ともに大切にできる豊かな心をもつ生徒」を育成できるように取組を推し進めた。</p>	<p>○キャリア在り方生き方ノート及びキャリア・パスポートの活用を継続して行った。</p> <p>○「キャリア在り方生き方探究ワークショップ」を実施し、異学年交流の学習活動に対して、一人ひとりが主体性をもって取り組んだ。</p> <p>○「キャリア在り方生き方教育」が明確に位置付けられているのは総合的な学習の時間のみである。</p>	<p>○特別活動の学級活動、生徒会活動及び学校行事並びに各教科における学習などの機会を十分生かし、「キャリア在り方生き方教育」が本校の教育活動の土台として有機的に機能するよう、より一層その裾野を広げていきたい。</p> <p>○「キャリア在り方生き方探究ワークショップ」を柱の一つとして、年間を通して取組を進める。</p>
8	職員研修	<p>○校内研修として心肺蘇生法、AEDの使い方、評価・評定、不適切指導防止についての研修を行った。</p> <p>○昨年度に引き続き、業務改善推進に向け、業務改善について考え、実施していくための研修を行った。</p> <p>○いじめ防止、体罰根絶、教職員の不祥事防止等の研修を適宜行った。</p> <p>○年間を通じて定期的に避難訓練を行い、本校の防災力の向上、生徒の防災意識の向上を図った。</p>	<p>○毎年、心肺蘇生法やAEDの使い方を研修することで、緊急時の対応について意識を高めることができた。</p> <p>○取り組むべき教育課題や今日的な課題について研修し、職員の資質向上等につながった。</p> <p>○津波を想定した避難訓練や、生徒に予告をしないシェイクアウト訓練の実施などにより、教職員を含め防災意識を向上させることができた。</p> <p>○教職員の不祥事防止についての校内研修を実施し、いくつかの事例に対してその予防、防止策について意見交換を行った。</p> <p>○評価・評定についての職員研修を実施し、新指導要領に基づいた評価について、全教職員で情報や内容を共有した。</p>	<p>○平和の尊さを深く理解できる生徒の育成と、本校における「平和教育スタンダード」の確立をめざして、さらに研究を推進する。</p> <p>○共生*共育を継続的に推進し、すべての生徒にとって居心地の良い学校、学級をめざす。</p> <p>○生徒たちの健全育成のために、情報モラル教育を計画的かつ継続的に実施する。</p> <p>○GIGAスクール構想やキャリア在り方生き方教育といった、取り組むべき教育課題や今日的な課題について継続的に研修し、職員の資質向上を図る。</p> <p>○職員研修としてOJT研修を取り入れて、職員の資質向上を目指したい。</p>

学校関係者の評価	学校運営のまとめ
<p>○2月に行われた地域教育会議子ども会議「南中で遊ぼう」では、野球部、バスケットボール部、吹奏楽部の生徒達が運営や企画に協力してくれた。1時間あまりの時間だったが、参加した小学生が楽しかったと帰っていった。地域の人との関わりもできてよかった。今後もぜひ継続してほしい。</p> <p>○学校評価アンケートについて。締め切り日の直前にミマモルメで促すことで、昨年度と比べ保護者分のアンケートの回収率が上がったことはよかった。</p> <p>○生徒の学習状況の評価について、教職員の感覚と保護者の感覚にズレがある。教職員は研修等を通して自信をもって評価をし、それを教育課程説明会等で保護者にきちんと理解してもらう必要がある。</p> <p>○南大師中の校庭が狭い。もっと広くすることはできないか。</p> <p>○中学生にとって部活動はとても重要な教育活動である。南大師中は部活動の数が少ないが、もっと増やすことはできないか。</p> <p>○そろそろ通学用のカバンを替えた方がいいのでは。</p>	<p>○生徒一人ひとりの居場所づくりを目指して取り組んできた。「学級づくり」「相談室」「寺子屋」等、生徒にとって安心して生活のできる環境づくりに今後も努めていく。</p> <p>○生徒の健全な成長を目指して、生徒に寄り添い、家庭、地域や行政機関との連携を深め、きめ細やかな取り組みを継続して行う。また、情報モラル教育も計画的かつ継続的に実施する。</p> <p>○「主体的・対話的で深い学び」を重視した授業展開を工夫するとともに、楽しい授業・わかる授業を実践し、基礎学力の定着をめざす。</p> <p>○地域で子どもたちを育てていくために、小・中・高連携教育の充実を計画的に行っていく。</p> <p>○学校評価の結果を分析し、課題の改善に向け全職員が共通理解のもと取り組んでいく。</p>